

## 令和5年度「もやせるごみ」組成分析調査結果

1. 調査実施日 令和5年7月13日（木），14日（金）
2. 調査対象地区 十宮町，江島一丁目，伊船町
3. 選定理由 本市の北部（市街地），南部（海岸部），西部（山間部）から選定
4. 結果

## (1) 十宮町

組成割合は，厨芥類の比率がもっとも高く，次いで紙類，木・竹・ワラ類，ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類の順となっています。

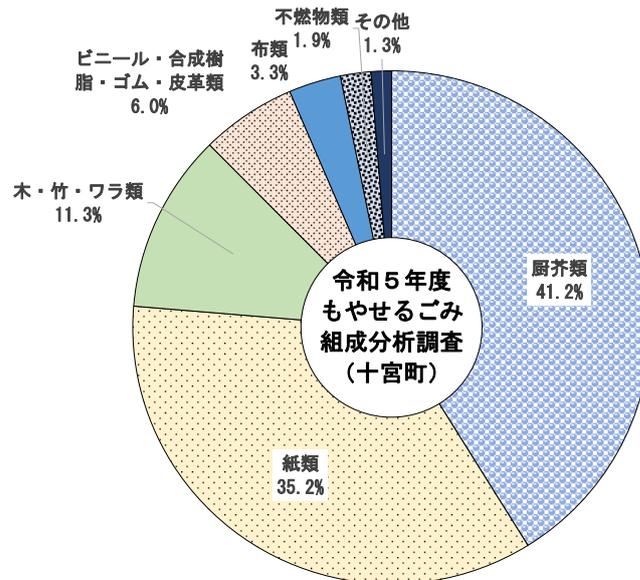


図1 もやせるごみ組成分析調査結果（十宮町）

## (2) 江島一丁目

組成割合は，紙類の比率がもっとも高く，次いで厨芥類，木・竹・ワラ類，ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類の順となっています。

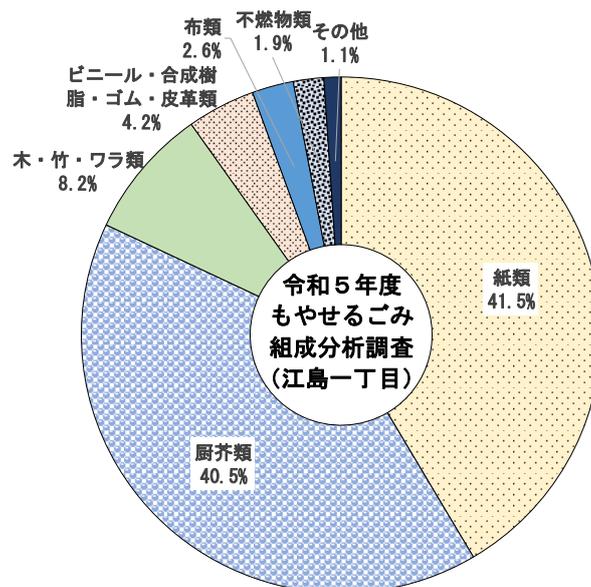


図2 もやせるごみ組成分析調査結果（江島一丁目）

## (3) 伊船町

組成割合は、厨芥類の比率がもっとも高く、次いで紙類、木・竹・ワラ類、ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類の順となっています。

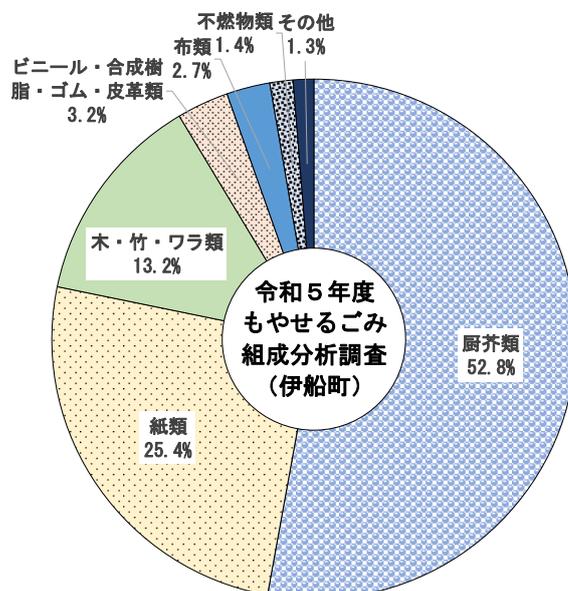


図3 もやせるごみ組成分析調査結果（伊船町）

## (4) 鈴鹿市全体

本市全体の組成割合は、厨芥類の比率がもっとも高く、次いで紙類、木・竹・ワラ類、ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類の順となっています。

これらの調査結果から、本市では市民の皆様の御協力によりプラスチック類の排出抑制や分別回収の徹底等が浸透していると考えられます。そのため、今後は①食品ロス削減の検討、②厨芥類の水切りの推進、③雑がみのリサイクル推進について推進していく必要があると考えられます。

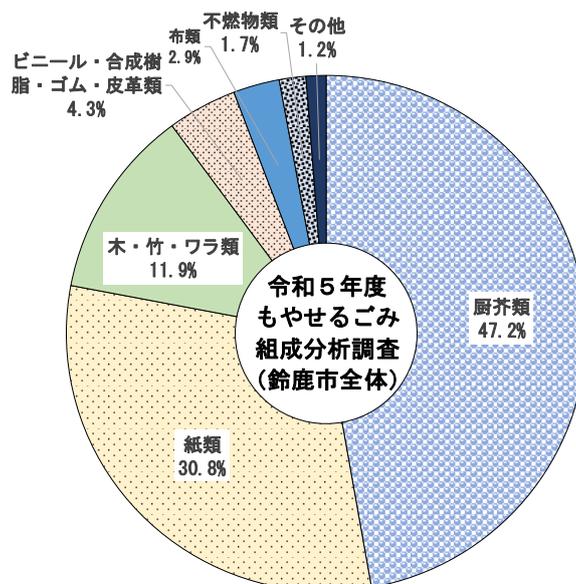


図4 もやせるごみ組成分析調査結果（鈴鹿市全体）